

新しい家族が、私の心を 柔らかく耕してくれた。

松阪教会 河口容子さん

河口容子さんの長男の結婚で、嫁と連れ子との同居が始まった。しかし、若い嫁と血のつながらない孫の振る舞いが許せず、また孫が一向に家族にとけ込まないことを思い煩う日々が続いた。数年後、ある式典のために半生を振り返り原稿を書く依頼が転機となる。現在の家庭を描きようとして、心がもやもやしてペンが止まってしまった。孫との関係の事だ。心の中で問答をくり返し、「孫を愛したいが、愛せない」という感情につき当たる。この思いを覆い隠すためにしつくと称して叱ったり、怒ったり——「なんて惨い仕打ちをしてきたのだ」と、深い後悔の念がわいた。容子さんは、今までの事を謝り、これからは優しくなると誓った。すると孫ははっこり笑って許してくれた。自分の正直な思いから逃げず、勇気をもって見つめることで殻が割れ、ほんとうの自分が現れたのだ。そして孫の存在そのものを抱えることができたとき、容子さんの心のもやもやは嘘のように消えていったのだ。



私たちは宇宙と二つ

人間の体を構成するすべての物質は、寿命の尽きた星が大爆発を起こしたときに宇宙空間に飛び散った、その星のかけらだといえます。私たちは、いわば星のかけらでできているというのです。約百三十七億年前に起きたビッグバンという現象が宇宙のはじまりといわれますが、宇宙研究によってこれまでに解明されてきたことをある学者は、「すべては、ひとつのものから始まった」「すべては互いに関わりあっている」と述べておられます。

宇宙ステーションから地球を撮影した写真や動画を見ると、私は「こんなに美しい星で、なぜ人は争うのだろう」という疑問がわいてきます。人間だけでなく、すべての存在が関連していて生まれてきたというのに、その兄弟姉妹がお互いに傷つけあい、生命を奪いあう愚かさおろかさを省み、それを抑止できないことに対する慚愧ざんきの念にかられます。

私たちは宇宙と二つ、真理と二つ、そして他も「己れ」。この「二つ」ということを胸に刻み、私たち一人ひとりが日々思いやりをもって人と接するとき、それは世界平和の種となり、美しい地球の未来を創造する肥料となることでしょう。

立正佼成会